

エス
ディー
ジェズ
SDGs

インタビュー

持続可能な未来へ



⑤

地球規模で地域考える

「RCE北海道道央圏協議会」は、SDGs(持続可能な開発目標)を道内の課題に引きつけて考える活動をしています。

その報告書に3月末、「僕らのヒーローSDGs」という文章を書きました。私が子供のころ、仮面ライダーやウルトラマンは弱きを助け、世界平和や地球を守る存在でした。でも最近はそのヒーローがいなくなりました。「誰一人取り残さない」「地球を救う」と掲げるSDGsを知り「これだ」と思ったのです。SDGsを地域の課題に引きつけて考える際は、北

海道の中の札幌とか、日本の中の北海道という視点ではなく、地球の中で自分たちの地域はどう位置付けられるかという視点で考えるべきです。あくまで「分母」

は地球。目の届く地域を「分子」にしつつ、地球規模で課題を見ることが大事です。また国と国との交流よりも、北海道なら北海道という地域と他国のどこかの

地域とが直接つながる交流が大事になります。

例えば日本の中の北海道という視点で考えると、食

料自給率が低い日本で、道内は食料生産基地と位置付けられる。もちろん地域の強みを生かすのはいいですが、だからと言って200%、地域によっては400%もの自給率で食料を作り、環境に過大な負荷をかけていいのかは疑問です。地域に必要な分の2倍も4倍もの食料を生産するに

は、地域の外から飼料やエネルギーを大量に持ち込まないといけない。窒素やリンが過剰に入ると河川や土壌は持続可能でなくなる。地域内で循環させる農業でないと、ゆくゆくは環境が壊れてしまうのです。

食料基地という呼び方は沖縄に集中する米軍基地と同じような印象を受けま

す。あるいは夕張をはじめ旧産炭地がエネルギー基地と呼ばれていたことも同じです。石炭の時代だと、ど

んな人が入ってきて、やがて国策の変更で採らなくなるの見向きもされなくなり、地域は疲弊した。農業も自分たちの環境を壊してまでどんどん生産し、疲弊してダメになったらおしまい、とならないか心配です。農業だけでなく漁業、林業、あるいは教育や福祉、交通、まちづくりなど、私たちの暮らし全般が今後50年、100年続けられるのか。本当に持続可能なものなのかどうか。この地域で暮らす道民一人一人に考えてほしいと思います。(報道センターの関口裕士が担当しました)



金子正美さん

RCE北海道道央圏協議会代表

かねこ・まさみ 1957年赤平市生まれ。酪農学園大へ。06年から教授。専門は地理情報システム(GIS)。15年から現職。青年海外協力隊員などを経て2001年に

〓おわり〓